

授業科目 臨床化学実習 I

【担当教員名】 土屋 康雄		対象学年	2	対象学科	臨床
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	45
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解		思考・判断		態度	
◎		◎		○	
【概要・一般目標：G10】 生体試料中の成分を定量するために必要な器具器材や装置の操作法や分析方法を理解し、臨床化学分析における基本操作、定量方法、結果の解釈などの技術を習得する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1 血清、その他の試料の取り扱い方法について熟練する。 2 実験器具、器材の取り扱い方法について熟練する。 3 各項目の分析方法を簡単に説明する。 4 検査値の臨床的意義を説明する。 5 データの正確性、精密性について説明する。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1、2	検査の基礎技術、検体処理			1-2	講義・実習
3、4	血清ナトリウム、カリウム、クロールの測定			3-5	実習
5、6	カルシウムの測定			3-5	講義・実習
7、8	無機リンの測定			3-5	講義・実習
9、10	血糖の測定			3-5	講義・実習
11、12	グリコヘモグロビンの測定			3-5	講義・実習
13、14	HDL-コレステロールの測定			3-5	講義・実習
15、16	トリグリセリドの測定			3-5	講義・実習
17、18	アルブミン、A / G比の測定			3-5	講義・実習
19、20	血清蛋白電気泳動			3-5	講義・実習
21、22	尿素窒素の測定			3-5	講義・実習
23	クレアチニンの測定			3-5	講義・実習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		臨床化学	前川真人 編集	医学書院	2012・4,500円+税
参考書		異常値の出るメカニズム	河合 忠ほか	医学書院	2013・6,000円+税
その他の資料					
【評価方法】 レポート(10%) 期限内に提出のあったものを評価する。 実技試験(30%) 定期試験(60%)			【履修上の留意点】 疾病と検査値の関わりを学ぶので項目毎に異常値の出るメカニズムを予習して臨むこと。		